

占領期の鳥取を学ぶ会 29 年度活動報告会

期日 平成 30 年 3 月 3 日

会場 鳥取市歴史博物館

日程

14 時 開会あいさつ 田中健一（鳥取県立公文書館長）

14 時 05 分 活動概要報告（県史編さん室 西村）

14 時 10 分 リレートーク「鳥取軍政部活動レポートの解説から見えてきたもの」

- 1 GHQ 鳥取軍政部の組織と人事（西村芳将・県史編さん室課長補佐）
- 2 占領期の鳥取（横山展宏・鳥取市歴史博物館学芸員）
- 3 「解説」と「読解」のコツ（澤田晶子・翻訳者）
- 4 英文解説に取り組んでみて（参加者のみなさん）

（資料紹介）

- ・鳥取大火救援物資のレーション（戦闘糧食）
- ・WEB で閲覧できる英連邦軍関係写真

15 時 30 分 閉会

進行 小山富見男（県史編さん委員会現代部会会長）

1 占領期の鳥取を学ぶ会 これまでの開催状況 ※〔 〕内は参加人数

- GHQ 占領期の鳥取を知る会 終戦から進駐までの経緯と GHQ の基礎知識を解説 7/1 [120名]
- 鳥取軍政部活動報告の解説 鳥取軍政部が第8軍司令部に提出した活動報告の英文解釈
7/29 [15名]、8/26 [13名]、9/16 [13名]、12/9 [9名]、1/20 [6名]、2/10 [11名]
- 樗谿グランドアパート見学会 将校宿舎となった上町佐々木邸を見学 10/14 [18名]
- 鼎談・鳥取に進駐軍がいた頃 清末忠人さん・松田昭章さんによる占領期の体験紹介 11/14 [74名]

2 英文レポートの主な解読内容

1946.8.31, 9.16, 10.1 付レポート

- ・GHQ が特に関心を寄せている事項は、コレラ・チフス・疱瘡・性病などの感染症対策、米子鉄道管理部や鳥取県農民総同盟、鳥取県教育会などの組合活動、朝鮮人の帰還計画の実行、賠償指定工場の保全管理等である。
- ・昭和21年9月、二十世紀梨の生育状況調査が行われ、戦中戦後の物資供給不足のため、肥料、袋用ワックス、病害防除液の不足による未熟または落果のため供給量が少なく高値となっていた。
- ・昭和21年9月、SCAP（連合国最高司令官）科学顧問が鳥取農業専門学校（鳥取大学農学部の前身）を視察し魚倉校長らと懇談。大山周辺の黒土の有効利用について意見を交わした。
- ・進駐軍と県民の関係は良好に推移していたが、1946年10月1日付レポートでは「以前は占領軍のクルマが通り過ぎると子どもたちが占領軍兵士に対して“hello”“good-by”の言葉を投げかけたが、今は無表情に見つめるだけ」であると変化が見られる。（背景に、占領軍兵士による交通事故や犯罪、教育担当官による学校視察の影響が窺える。）

1947.1.6 付レポート

- ・米子地区の売春婦に関し、廃娼運動を行うイギリス側の人物が会議を開催。性病検査のため皆生病院の機能を市内に移すことについて議論あり。
- ・46年12月にソ連からの初の引き揚げ。新聞記事に体験記が掲載。鳥取市内で「学園新聞」「日曜新聞」の2紙が創刊された。
- ・日本人と進駐軍の関係は良好。英連邦軍人による交通事故2件。日本人による米子駅での進駐軍荷物の盗難。日本人少女を連れたインド兵に対する日本人の暴行事件の続報。
- ・歩行者の右側通行が47年1月から改正され左側通行に戻るとの観測。（日本人はもともと左側対面通行であったが、軍政部の指示により46年11月15日から右側通行に変えた県もあり全国的に混乱。内務省がGHQに申し入れて再び左側通行に戻そうとする動き。ただし、49年道路交通法改正で再び右側通行となる。）

1947.4.4 付レポート

- ・4月に行われる県知事・市町村長選挙を前に、ノーラン軍政隊長率いる鳥取軍政隊およびBCOF隊員からなる選挙監視班が結成された。
- ・賠償工場関係では、指定工場ではない米子製鋼所が管理する賠償設備の報告がなされている。明治機械製作所、倉吉振興工場でも賠償設備が等級分けされて管理されている。
- ・境港から朝鮮・沖縄向けの連合軍家族用住宅建材（木材）の積み出しが行われたが、輸送手段（船舶）不足のため貯木場に留置されている。
- ・畜産試験場をSCAP/ESS 経済科学局オーエンズ氏が視察。種馬場として隣県5県に種畜を供給。
- ・供出米の完納に軍政部が関心を抱き、完納率は103.3パーセントに達した。
- ・4月に義務教育制度が施行されるのを前に、国民学校教員の処遇について教員組合から県に対して要望がだされた。
- ・治安について、米子で一方通行が実施され、交通法規の遵守について新聞を通じて周知された。

樗谿グランドアパート見学会

- ・14時西村挨拶、鳥取軍政部事務所・宿舎位置の変遷地図を説明。木谷館長からグランドアパートの建設経緯と外観について説明。その後、佐々木委員（鳥取市文化財課課長補佐、樗谿グランドアパート保存会）の案内で邸内を見学。15時30分解散
- ・同邸宅は鳥取市の指定文化財の木造2階建ての建物。昭和5年に医院として建築され、戦後進駐軍将校の宿舎として使われたのち、ホテル、アパートとして利用された。佐々木氏曰く、洋風建築と和風建築が層になっているため、それぞれの改修部分の特定が困難。現在1階ダンスホールとして利用された部分の床板を剥がし、基礎と壁、柱、進駐軍増設部分（向かって右側）との連結部分の調査が進められていた。
- ・進駐軍の名残としては、ダンスホールの女性の絵、同カウンター、200ボルトコンセント、二階居室のベッド、押し入れのクローゼットなど。
- ・また、木谷氏が生前の佐々木氏（持ち主）に聞いたところ、鳥取軍政部隊長ノーランの趣味で屋内に竹の意匠が施されていること、裏の別棟にパンパン（売春婦）を囲っていたという。
- ・澤田委員と調査を進めている英文資料によれば、上町グランドアパートは1946年8月26日に接收され将校宿舎（6名）として利用された。

鼎談 鳥取に進駐軍がいた頃

【進駐軍の印象】

進駐軍が来て見ても見ても先生に言われていた。見つかっても急に動く危険とも言われた。自宅に鳥取連隊長が下宿していたので、ある日進駐軍の兵士がやってきて家の中のものをみせろといわれた。英印軍がやってきてチョコレートもらった。昭和25年に鳥取大学（学芸学部：岩倉兵舎跡）に入学して最初にしたことは、校舎の壁と天井一面に極彩色で描かれた妖艶な（女性の）絵をペンキで隠すことだった。（清末さん）

戦前は「鬼畜米英」で市内のある小学校（醇風小学校）では渡り廊下に鼻の高い米軍の顔を描いて子どもたちに踏ませていた。45年10月米軍が来たぞーと言われ、教室から覗いているとジープに乗った4人の進駐軍兵士が通りすぎた。来るべきものが来たかという感じ。婦女子にたいする不安があった。昭和21年～22年頃、2、3ヶ月に一度、アリマ氏が学校視察に来ていた。学校が民主化されているかどうかの確認だった。エバンスという将校の名前も記憶している。自分の家にも二人、一人はアリマ氏だったと思うが、突然訪ねてきたので、母と妹は裏口から逃し、父と自分が対応した。世界地図を持ってきたパンジャブの位置を示したりした。帰りに日本人形を渡すと喜んでた。外国人は怖いと思っていたが普通の人間だった。（松田さん）

【進駐軍の住宅について】

鳥取市東町の宣教師宅はキリスト教伝導団体所有の建物で、宣教師ベネット氏は明治末から昭和14年まで滞在した。鳥取に洋風文化を伝える拠点ともなり、矢部貞治、澤田廉三らも通った。その後資産家である柴田俊太郎氏の所有となり、空き家となっていたが、戦後に進駐軍が接收し、洋館であったため改修も容易で、事務所・宿舎として使用した。残念なことに47年5月に飛び火で全焼。残っていれば文化財価値がある。（松田さん）

大学に入って初めて英語を習った。だんだん難しくなったので同級生の中田君が「樗谿に英語を勉強しにいこう」「お礼に日本語を教えればギブアンドテイクだ」「自分が話をつけてくる」ということで、二人で何度か訪問した。グランドアパートの横に接收した住宅が進駐軍事務所となっていて、家族用住宅はその横に二棟建っていた。啐啄園と同じつくりの家を接收した。邸内には大きな暖炉とソファ、柱時計がかかっていた。（清末さん）

資料1 鳥取県内への占領軍の進駐状況

- 45.10.28 米第6軍第10軍団第24師団情報官**ラスボン中佐**一行6名米子到着。県内巡視(県庁、飛行場、道路、港湾、大山)後、11.6離県。
- 45.10.29 第21聯隊**オスボン少佐**以下197名が鳥取駅に到着。事務所は県庁内、宿舎は岩倉兵営。岩倉兵営接收11.15離県。
- 45.12 第76軍政中隊鳥取分遣隊が設立。**オスボン少佐**が指揮。将校6名、下士官16名
- 46.02 第76軍政中隊鳥取分遣隊と第36軍政中隊岡山分遣隊に配置を交換。指揮官の**サリバン大尉**と4人の下士官が鳥取に着任。
- 46.03.18 軍政部の宿舎をアメリカ人宣教師ベネット氏所有の個人宅(鳥取市西町)へ移転。建物は5つの部分からなり10584ft(983㎡)、車庫付で3名分の従業員宿舎、母屋は11部屋あり。
- 46.05.20 軍政部事務所を(岩倉兵営から)宿舎と同じ元宣教師宅に移転
- 46.06.28 サリバン大尉が**アリマ中尉**と交代。
-
- 46.07.13 第36軍政中隊からアリマ中尉と下士官6名着任。
- 46.07.22 **ノーラン少佐**が軍政隊長に着任。
- 46.07.08 軍政部職員を増員。事務所を大日本教育会鳥取支部(教育会館2階)へ移転。
- 46.08.12 将校住居を上町グランドアパートに移転(下士官宿舎は元宣教師宅のまま)
- 47.01 この時期、下士官は西町宣教師邸、将校は上町グランドアパートに居住。
- 47.05.04 下士官宿舎が火災で焼失。観光ホテル2階他に一時移転。
- 47.05.31 **ヴァンダーツィーフ中佐**が軍政隊長に着任
- 47.06 下士官住居を下士官用宿舎に移転→48.03上町に家族用住宅完成(予定)→48.03家族用の新住居4棟完成。これまで10軒の将校家族と5軒の下士官家族が駐在。

英連邦軍インド兵の岩倉兵舎進駐

- 46.04.25 英印パンジャブ聯隊第5大隊先遣隊110人が岩倉兵舎跡に進駐。
- 46.05.20 英印パンジャブ聯隊第5大隊本隊が到着
- 47.08.15 インドが独立→インド兵は10月までに撤退

美保航空隊

- 45.11.02 米軍コード代将が米子到着。03米軍ウォーター中將・ガ〇〇軍曹が米子到着
- 45.11.12 米第10軍団第24師団第3聯隊パーン大佐以下160名が進駐。
- 46.03.30 英連邦航空隊先遣隊10人が到着
- 46.05.20 英連邦本隊**クリスティ大佐**が進駐(米軍は熊本に移駐)
イギリス空軍第11飛行中隊・第17飛行中隊、インド空軍第4飛行中隊が駐留
- 48.04.01 第34オーストラリア歩兵旅団が管轄(常駐せず) 48.05.07 米軍に引渡し

食糧供給部隊

- 46.04.21 英印補充部隊米子第56印度混成中隊が永興産業株式会社を接收(島根・鳥取駐屯英印軍食糧供給部、トイードル大尉)

憲兵隊

- 46.05.10 英空軍第22憲兵隊(第76英帝国調査保安部)米子分遣隊が米子経済部を接收

対敵諜報隊 (Counter Intelligent Corps ; CIC)

- 45.10.29事務所を県庁・観光ホテルに置き事務を開始。
- 46.04.03事務所として木村清一居宅を接收(5.21移転)